

第2回 いわき市土木審議会

◆数字で見るいわき市の道路事情

- 01 いわき市の基本情報
- 02 人口減少の現状と将来推計
- 03 道路予算とその使われ方
- 04 道路・橋梁の現状
- 05 インフラを守るひとの現状
- 06 インフラをとりまく状況と市の取組み



いつでも
わくわく
まらまら
IWAKI

IWAKI
60th Anniversary

◆ 数字で見るいわき市の道路事情

- 01 いわき市の基本情報
 - 02 人口減少の現状と将来推計
 - 03 道路予算とその使われ方
 - 04 道路・橋梁の現状
 - 05 インフラを守るひとの現状
 - 06 インフラをとりまく状況と市の取組み
-

IWAKI

▶ 広大な市域に都市機能の集積地が分散する多核型の都市構造

Data

【面積】

1,232.51
km²

【人口】

31.8 万人

※2024年時点

【市税】

市民1人あたり

16.1 万円

※2023年度

Road facilities

【市道】

約 9,000 路線

約 3,500 km



【橋梁】

約 2,000 橋

約 20 km



【街路樹】

高木 約 8,100 本

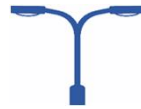
中木 約 1,300 本

低木 約 65,000 本



【道路照明】

約 1,400 基

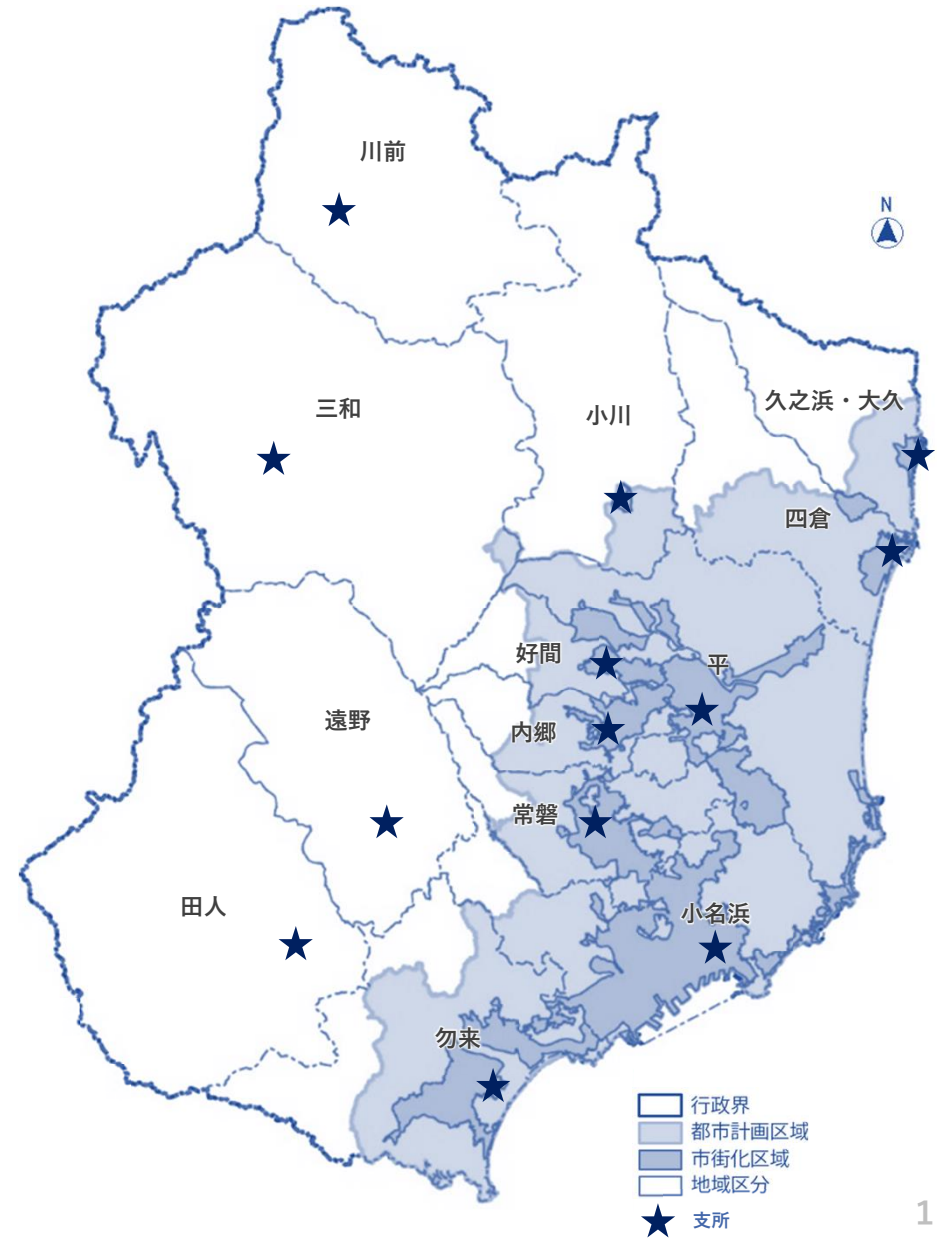


行政区域 : 1,232.51 km²

都市計画区域 : 376.17 km²

(市街化区域 : 101.01 km²)

都市計画区域外 : 856.34 km²



中核市 比較 (62都市)

【市道延長】

6位

※2023年時点

【面積】

2位

※2023年時点

【橋梁数】

6位

※2021年時点

【人口】

42位

※2024年時点

【道路維持管理費】

27位

約6.6億円

※2024年時点

【可住地の割合】

56位

総面積の28.6%
※2024年時点

【土木職員数】

27位

※2024年時点

Current situation

【住民】

市の人口の

94%

都市部に居住

※2024年時点

【道路舗装率】

73.1%

※2023年時点

【道路予算】

45億円

【道路費の割合】

つくる÷まもる

【工事費用】
20年間で

約2倍

【職員の高齢化】
道路パトロール職員

平均66.6歳

※2024年時点

【苦情・要望対応時間】
年間

約1,000時間

※経済土木課を除く

【総ぐるみ運動参加者】

158,970人

※2024年の実績

※本資料では、平地区、小名浜地区、勿来地区、常磐地区、内郷地区、四倉地区、好間地区を都市部
小川地区、遠野地区、久之浜・大久地区、田人地区、三和地区、川前地区を中山間部と表現しています。

Future >>>

【人口】
2060年には人口が
半分以下



【歳入】
中長期的には
減少傾向



【市道延長】
市民1人あたり
2倍
2060年頃



【50年経過橋梁】
全体の95%以上
2060年頃



◆ 数字で見るいわき市の道路事情

- 01 いわき市の基本情報
 - 02 人口減少の現状と将来推計
 - 03 道路予算とその使われ方
 - 04 道路・橋梁の現状
 - 05 インフラを守るひとの現状
 - 06 インフラをとりまく状況と市の取組み
-

中核市比較 (62都市)

【市道延長】

6位

※2023年時点

【面積】

2位

※2023年時点

【橋梁数】

6位

※2021年時点

【人口】

42位

※2024年時点

【道路維持管理費】

27位

約6.6億円

※2024年時点

【可住地の割合】

56位

総面積の28.6%
※2024年時点

【土木職員数】

27位

※2024年時点

Current situation

【住民】

市の人口の

94%

都市部に居住

※2024年時点

【道路舗装率】

73.1%

※2023年時点

【道路予算】

45億円

【道路費の割合】

つくる÷まもる

【工事費用】
20年間で

約2倍

【職員の高齢化】
道路パトロール職員

平均66.6歳

※2024年時点

【苦情・要望対応時間】
年間

約1,000時間

※経済土木課を除く

【総ぐるみ運動参加者】

158,970人

※2024年の実績

Future >>>

【人口】
2060年には人口が
半分以下



【歳入】
中長期的には
減少傾向



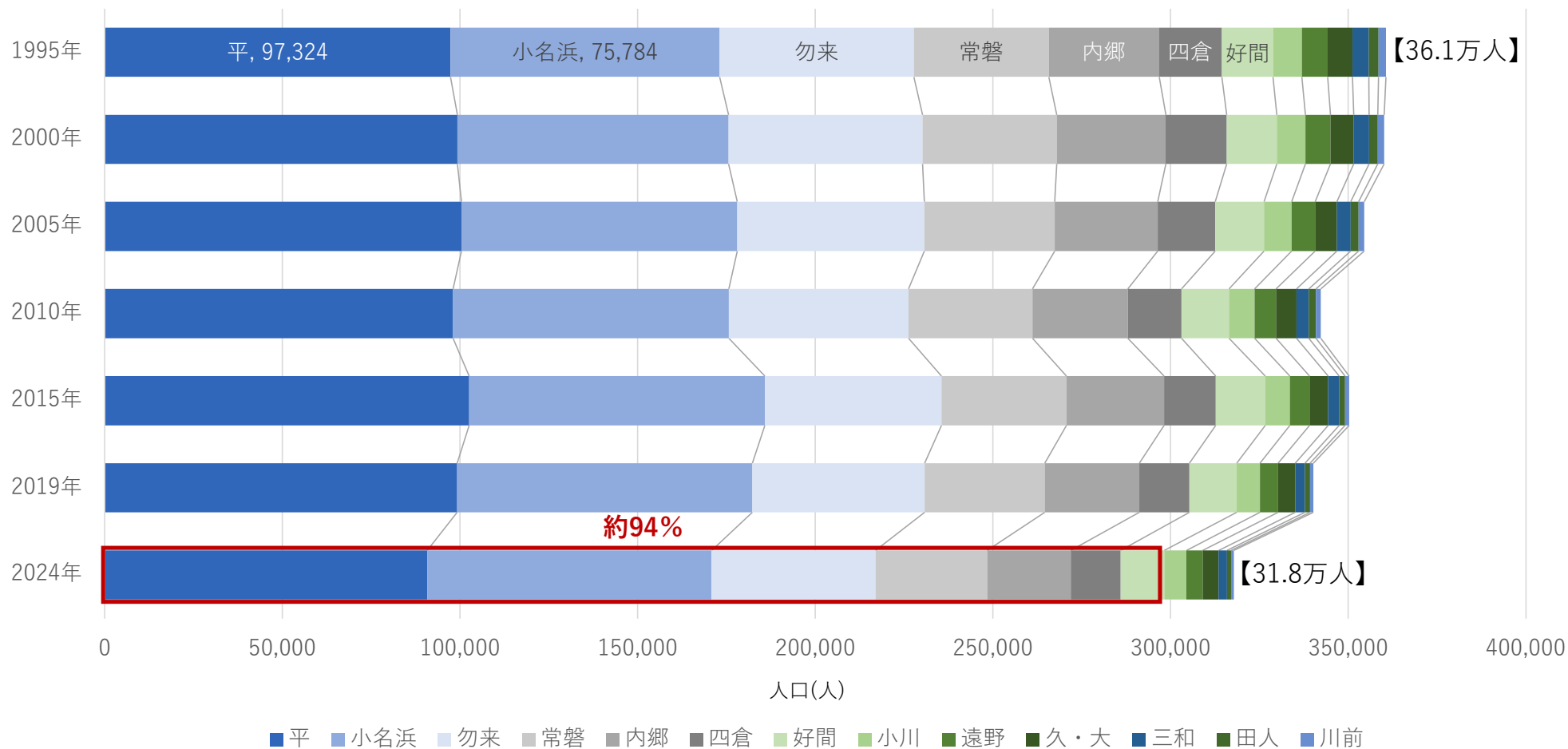
【市道延長】
市民1人あたり
2倍
2060年頃



【50年経過橋梁】
全体の95%以上
2060年頃



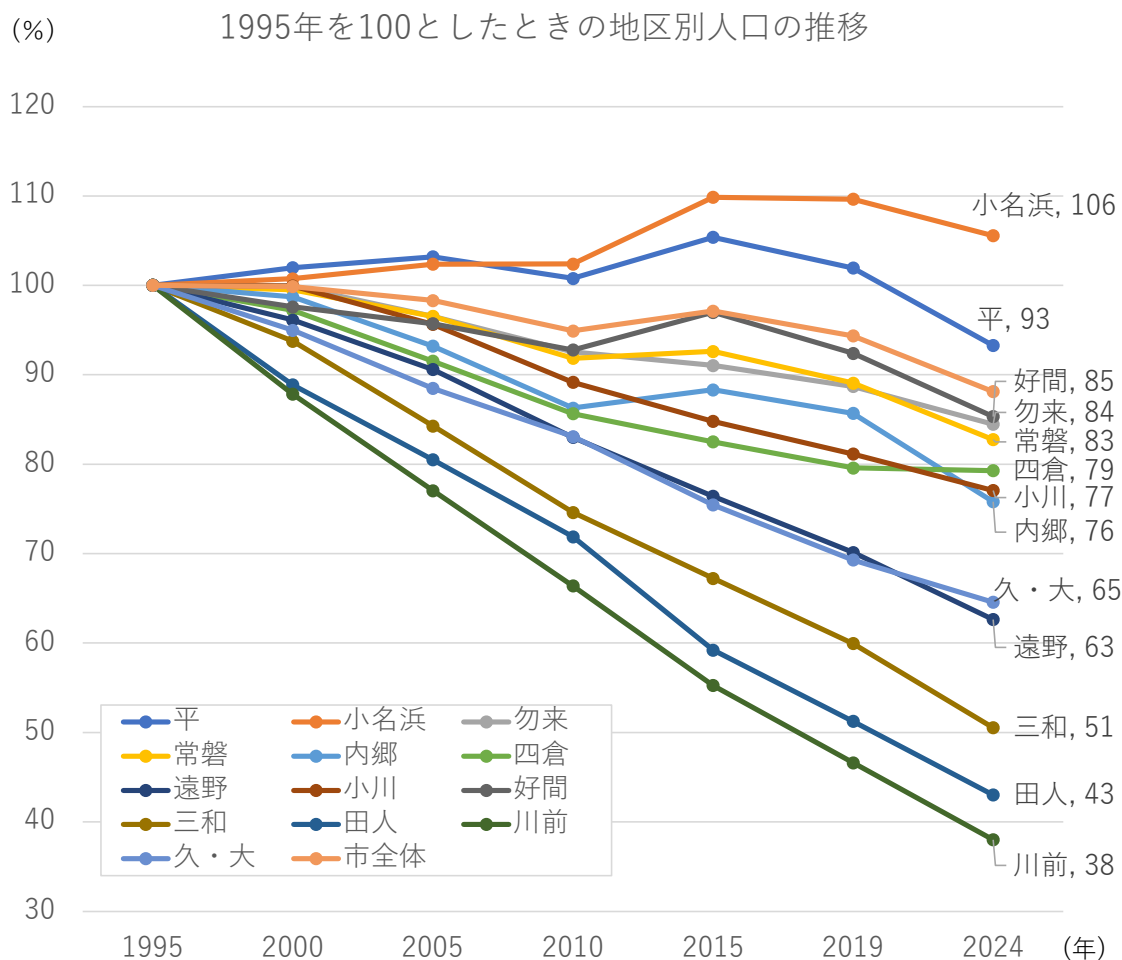
居住地ごとの人口推移について



- ▶市の人口はこれまでの約30年で22%減少している
- ▶2024年時点で人口の約94%が都市部に居住している

※各年のいわき市「市統計書」をもとに土木政策課で作成

地区別人口の推移



地区名	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2019年	2024年
平	97,324	99,256	100,443	98,077	102,549	99,221	90,790
小名浜	75,784	76,347	77,575	77,600	83,269	83,090	80,003
勿来	54,607	54,566	52,709	50,549	49,713	48,434	46,135
常磐	37,981	37,790	36,666	34,886	35,174	33,829	31,436
内郷	31,078	30,674	28,964	26,813	27,448	26,633	23,563
四倉	17,671	17,179	16,172	15,137	14,577	14,064	14,009
遠野	7,307	7,024	6,619	6,065	5,584	5,125	4,578
小川	8,088	8,083	7,735	7,211	6,858	6,563	6,234
好間	14,397	14,051	13,781	13,358	13,963	13,304	12,288
三和	4,589	4,303	3,867	3,424	3,085	2,751	2,319
田人	2,775	2,466	2,234	1,995	1,643	1,422	1,194
川前	2,047	1,798	1,577	1,359	1,131	954	778
久・大	6,950	6,601	6,150	5,775	5,243	4,815	4,487
市全体	360,598	360,138	354,492	342,249	350,237	340,205	317,814

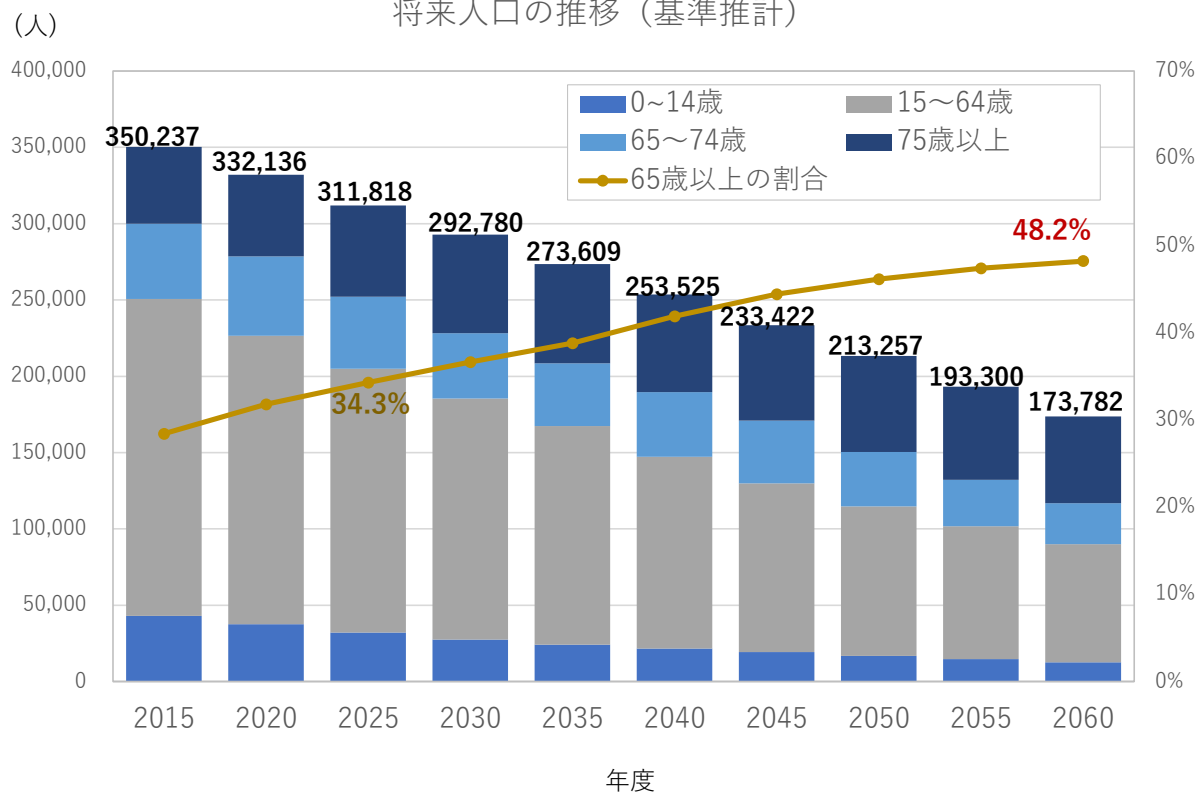
※各年のいわき市「市統計書」をもとに土木政策課で作成

- ▶ ほとんどの地区で人口減少が進行している
- ▶ 特に中山間部では顕著に人口減少が進行している

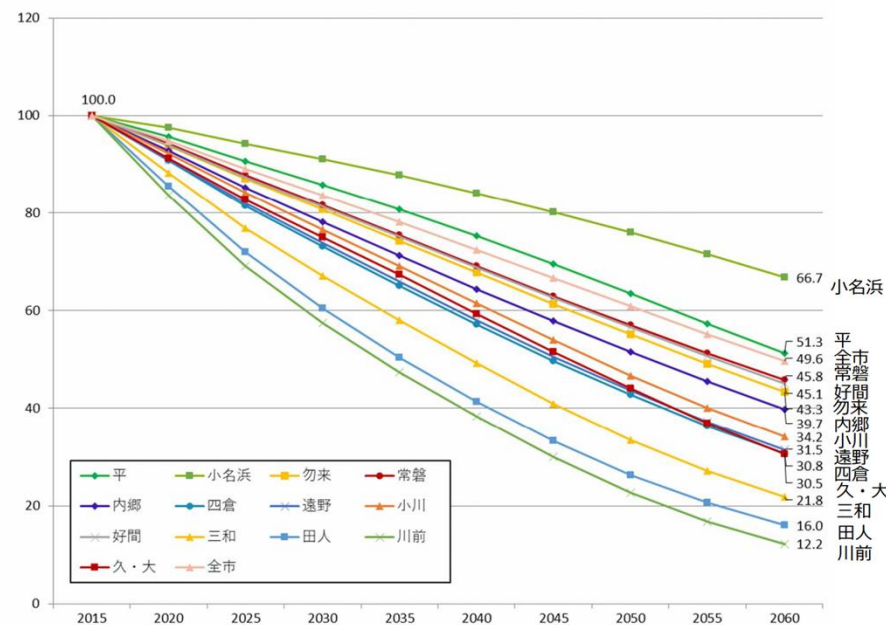
将来人口の推計



将来人口の推移（基準推計）



図表 27 2015年を100としたときの各地区別人口変化の推移（基準推計）



(出典) いわき市「いわき創生総合戦略」R3.3

- ▶ 2060年には人口が2015年の半分以下に
- ▶ 2060年には人口の約半分以上が65歳以上に

- ▶ 全ての地区で人口減少が進行
- ▶ 中山間部では2015年比で80%以上人口が減少する地区も

◆ 数字で見るいわき市の道路事情

- 01 いわき市の基本情報
 - 02 人口減少の現状と将来推計
 - 03 道路予算とその使われ方
 - 04 道路・橋梁の現状
 - 05 インフラを守るひとの現状
 - 06 インフラをとりまく状況と市の取組み
-

中核市比較 (62都市)

【市道延長】

6位

※2023年時点

【面積】

2位

※2023年時点

【橋梁数】

6位

※2021年時点

【人口】

42位

※2024年時点

【道路維持管理費】

27位

約6.6億円

※2024年時点

【可住地の割合】

56位

総面積の28.6%
※2024年時点

【土木職員数】

27位

※2024年時点

Current situation

【住民】

市の人口の

94%

都市部に居住

※2024年時点

【道路舗装率】

73.1%

※2023年時点

【道路予算】

45億円

【道路費の割合】

つくる÷まもる

【工事費用】
20年間で

約2倍

【職員の高齢化】
道路パトロール職員

平均66.6歳

※2024年時点

【苦情・要望対応時間】
年間

約1,000時間

※経済土木課を除く

【総ぐるみ運動参加者】

158,970人

※2024年の実績

Future >>>

【人口】
2060年には人口が
半分以下



【歳入】
中長期的には
減少傾向



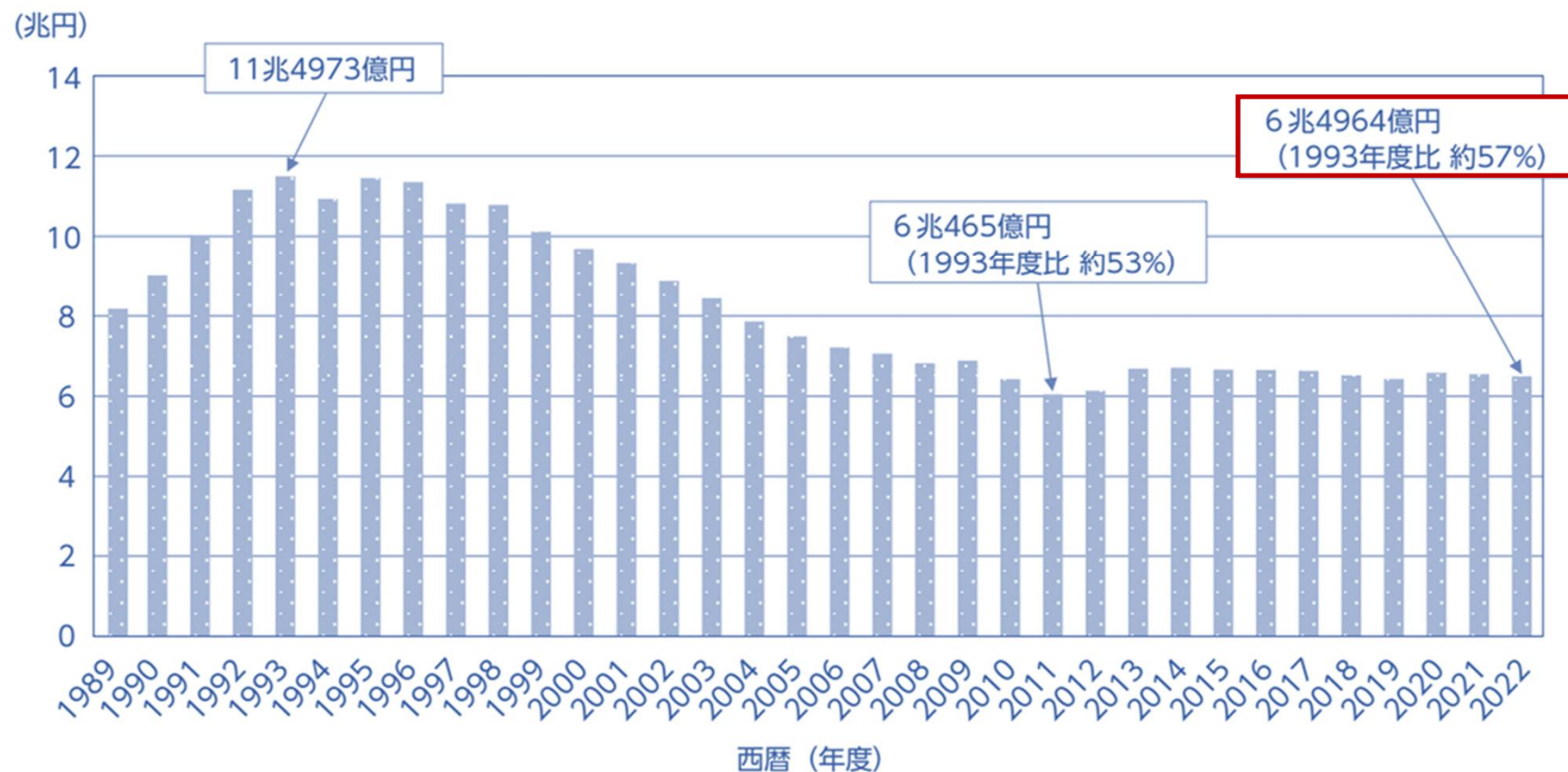
【市道延長】
市民1人あたり
2倍
2060年頃



【50年経過橋梁】
全体の95%以上
2060年頃



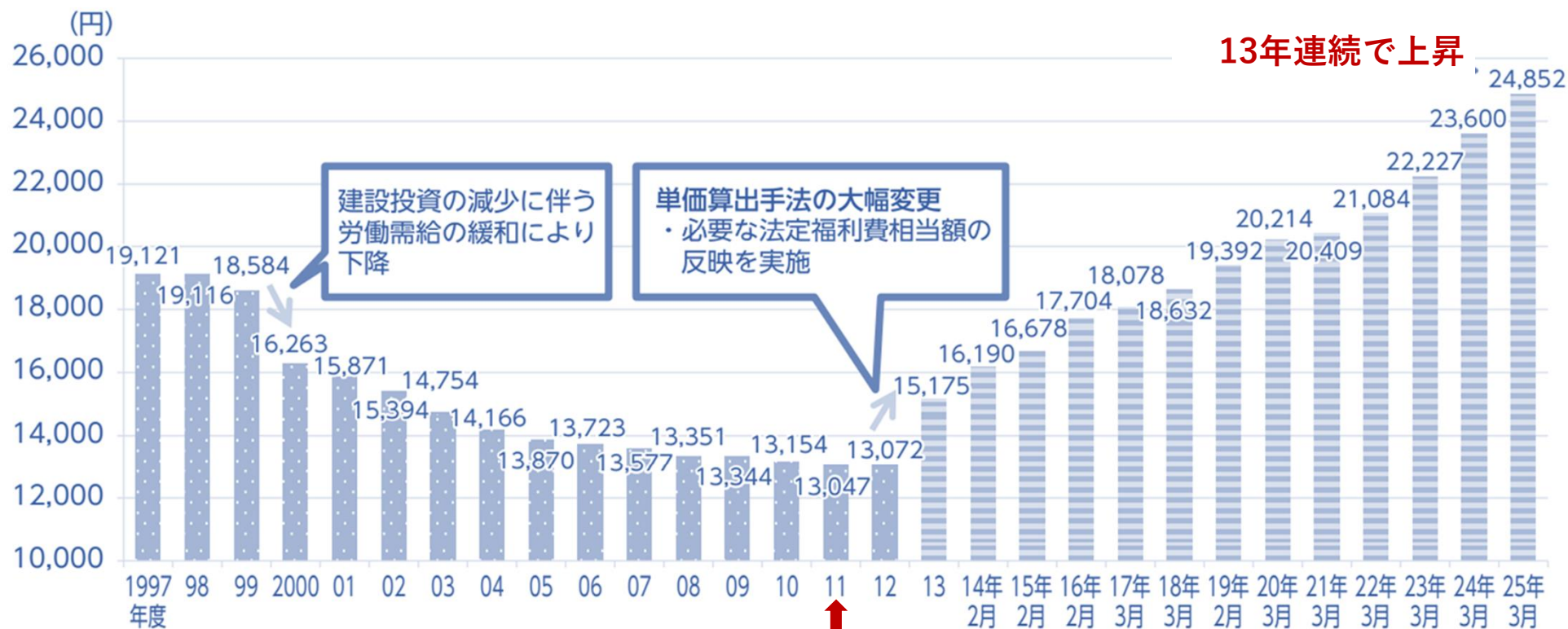
市町村における土木費の推移



(出典) 国土交通省「令和7年度版国土交通白書」

▶ 市町村における土木費はピーク時の1993年度の約11.5兆円から約6割程度まで減少している

公共工事設計労務単価の推移(全国全職種平均値)



資料) 国土交通省

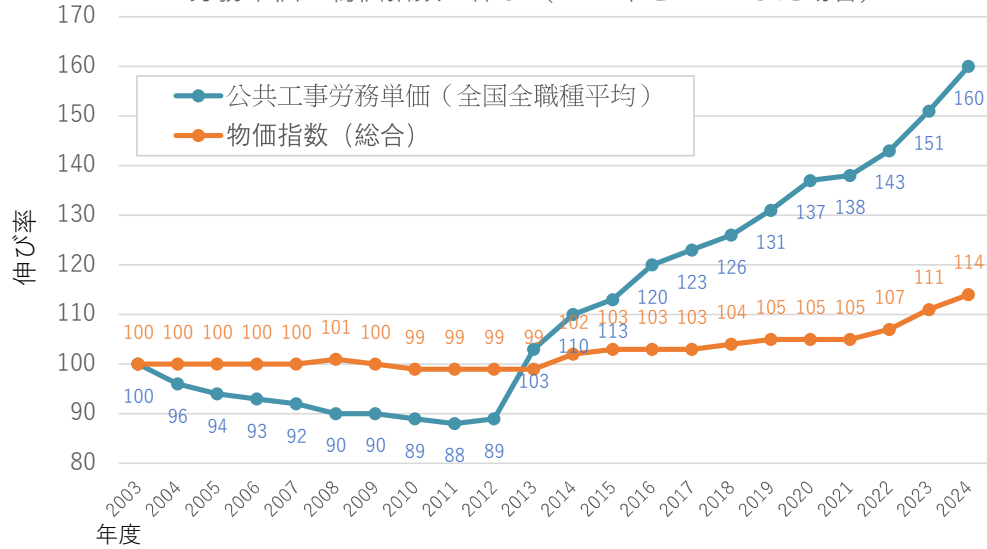
東日本大震災
(2011.3.11)

(出典) 国土交通省「令和7年度版国土交通白書」

▶ 労務単価は2025年まで13年連続で上昇している。

物価・諸経費の上昇

労務単価と物価指数の伸び (2003年を100とした場合)



〈公共工事労務単価〉
20年間で
約1.6倍

- (要因)
- ・建設業の担い手確保・育成
 - ・2024年度の時間外労働の上限規制適用 など

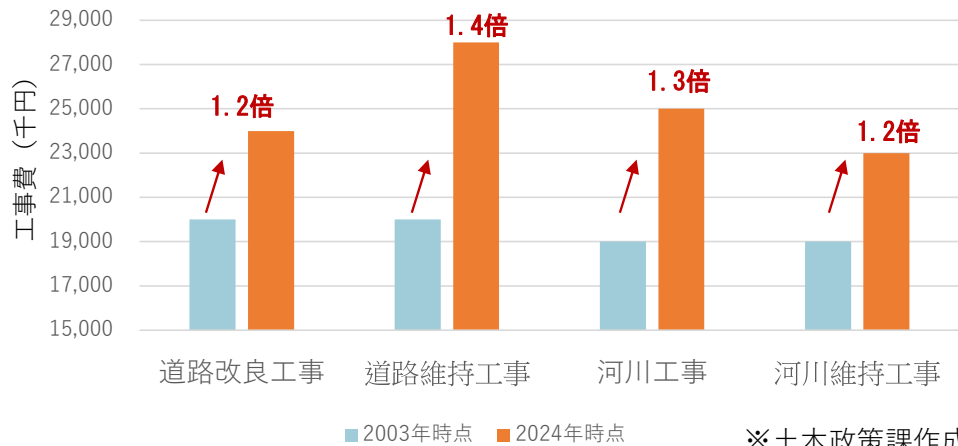
〈物価〉
20年間で
約1.1倍

- (要因)
- ・原材料価格の高騰
 - ・円安
 - ・賃金上昇など

〈公共工事諸経費〉
20年間で
約1.2~1.4倍

- (要因)
- 働き方改革に伴う「週休2日の推進」による補正
 - 復旧・復興に係る補正

公共工事諸経費の比較 (直接工事費10,000千円の工事費)



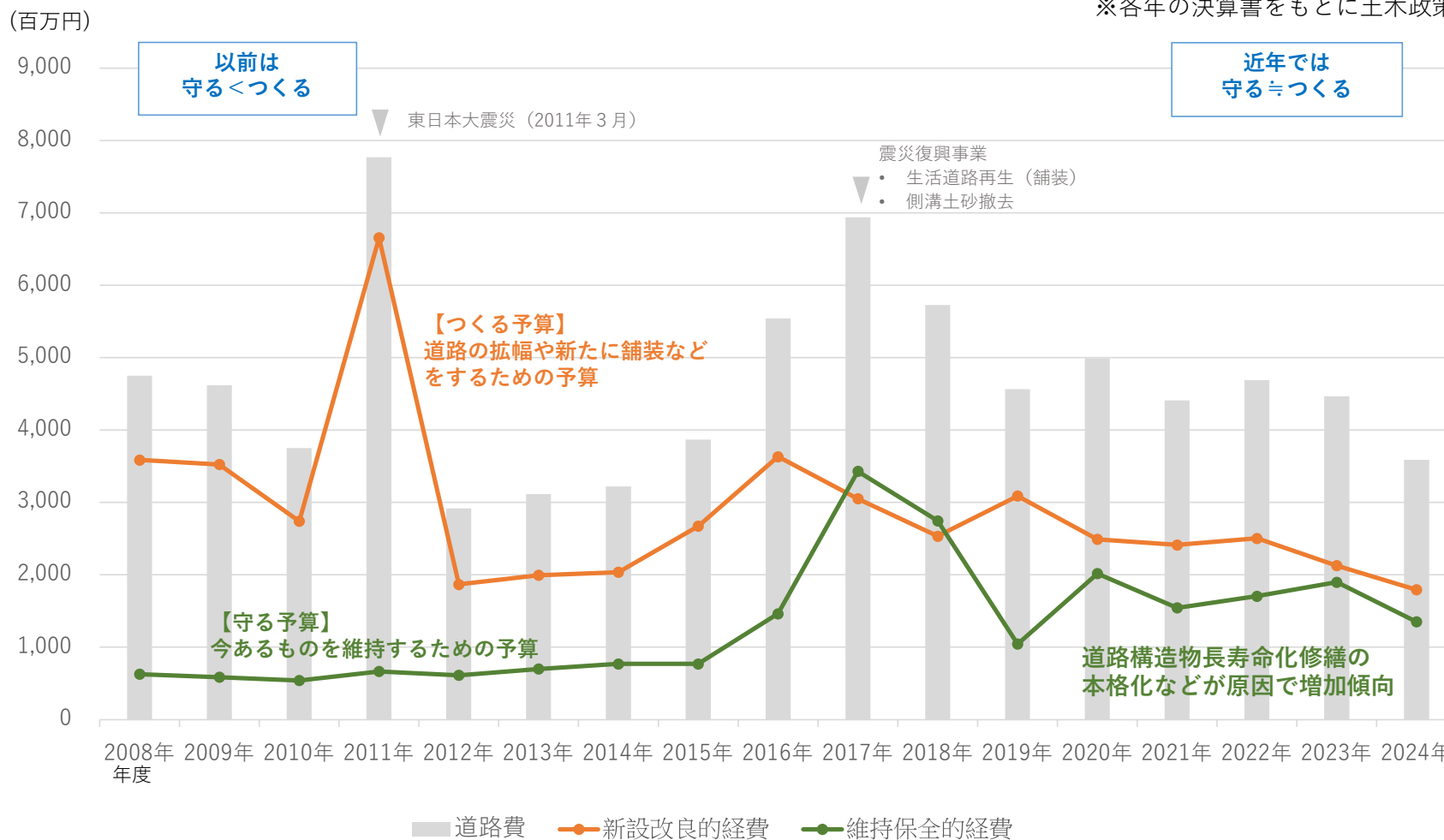
※土木政策課作成

20年前に比べ**2**倍近く費用がかかる↓
同じ費用で実施できる延長は**半分**に!!

道路費と性質別経費の推移



※各年の決算書をもとに土木政策課で作成



- ▶ これまでと同様の維持管理を行うために必要な費用が増加
- ▶ 新たにつくる・改良するための費用が減少

◆ 数字で見るいわき市の道路事情

- 01 いわき市の基本情報
 - 02 人口減少の現状と将来推計
 - 03 道路予算とその使われ方
 - 04 **道路・橋梁の現状**
 - 05 インフラを守るひとの現状
 - 06 インフラをとりまく状況と市の取組み
-

中核市比較 (62都市)

【市道延長】

6位

※2023年時点

【面積】

2位

※2023年時点

【橋梁数】

6位

※2021年時点

【人口】

42位

※2024年時点

【道路維持管理費】

27位

約6.6億円

※2024年時点

【可住地の割合】

56位

総面積の28.6%
※2024年時点

【土木職員数】

27位

※2024年時点

Current situation

【住民】

市の人口の

94%

都市部に居住

※2024年時点

【道路舗装率】

73.1%

※2023年時点

【道路予算】

45億円

【道路費の割合】

つくる÷まもる

【工事費用】
20年間で

約2倍

【職員の高齢化】
道路パトロール職員

平均66.6歳

※2024年時点

【苦情・要望対応時間】
年間

約1,000時間

※経済土木課を除く

【総ぐるみ運動参加者】

158,970人

※2024年の実績

Future >>>

【人口】
2060年には人口が
半分以下



【歳入】
中長期的には
減少傾向



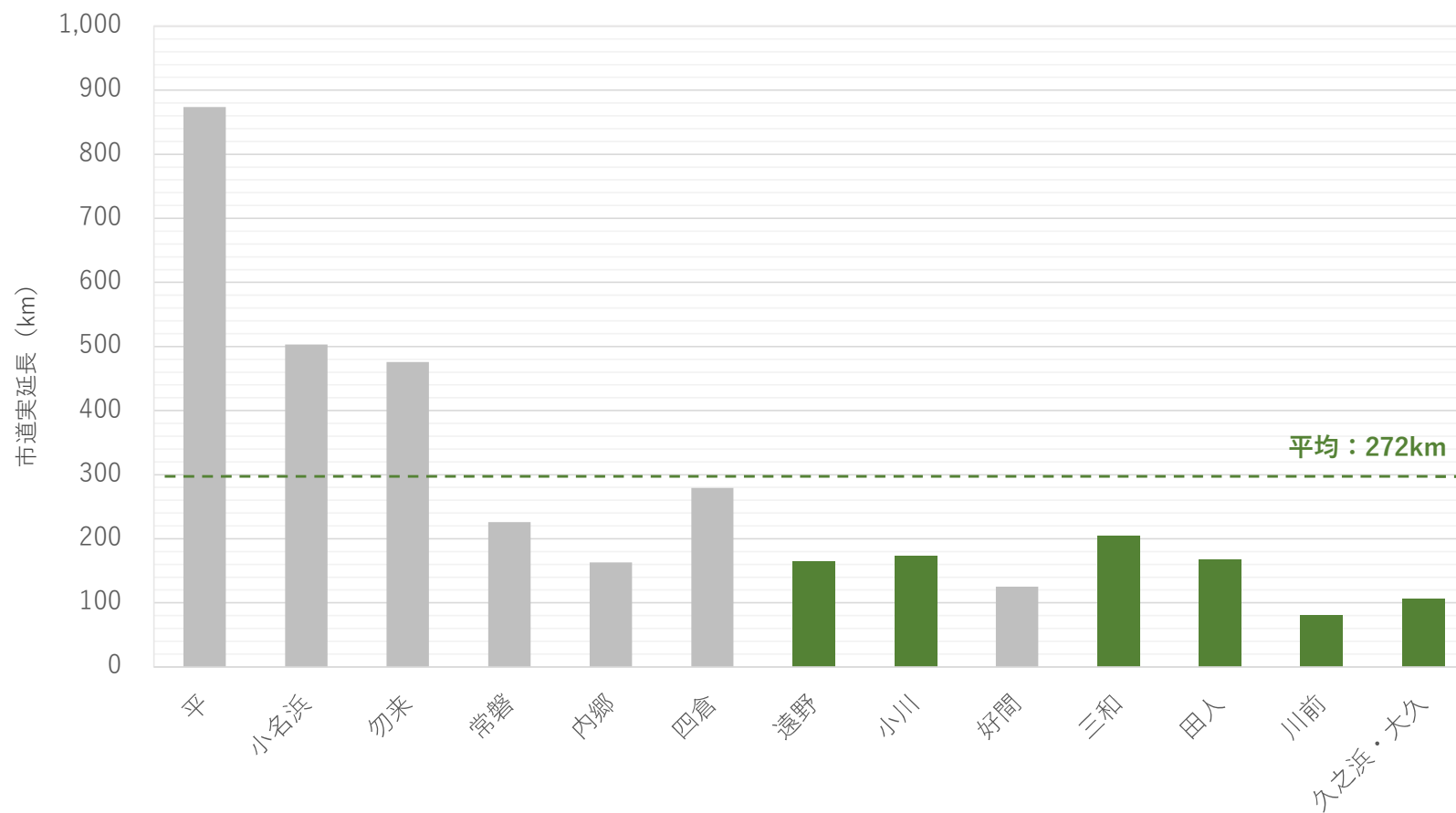
【市道延長】
市民1人あたり
2倍
2060年頃



【50年経過橋梁】
全体の95%以上
2060年頃

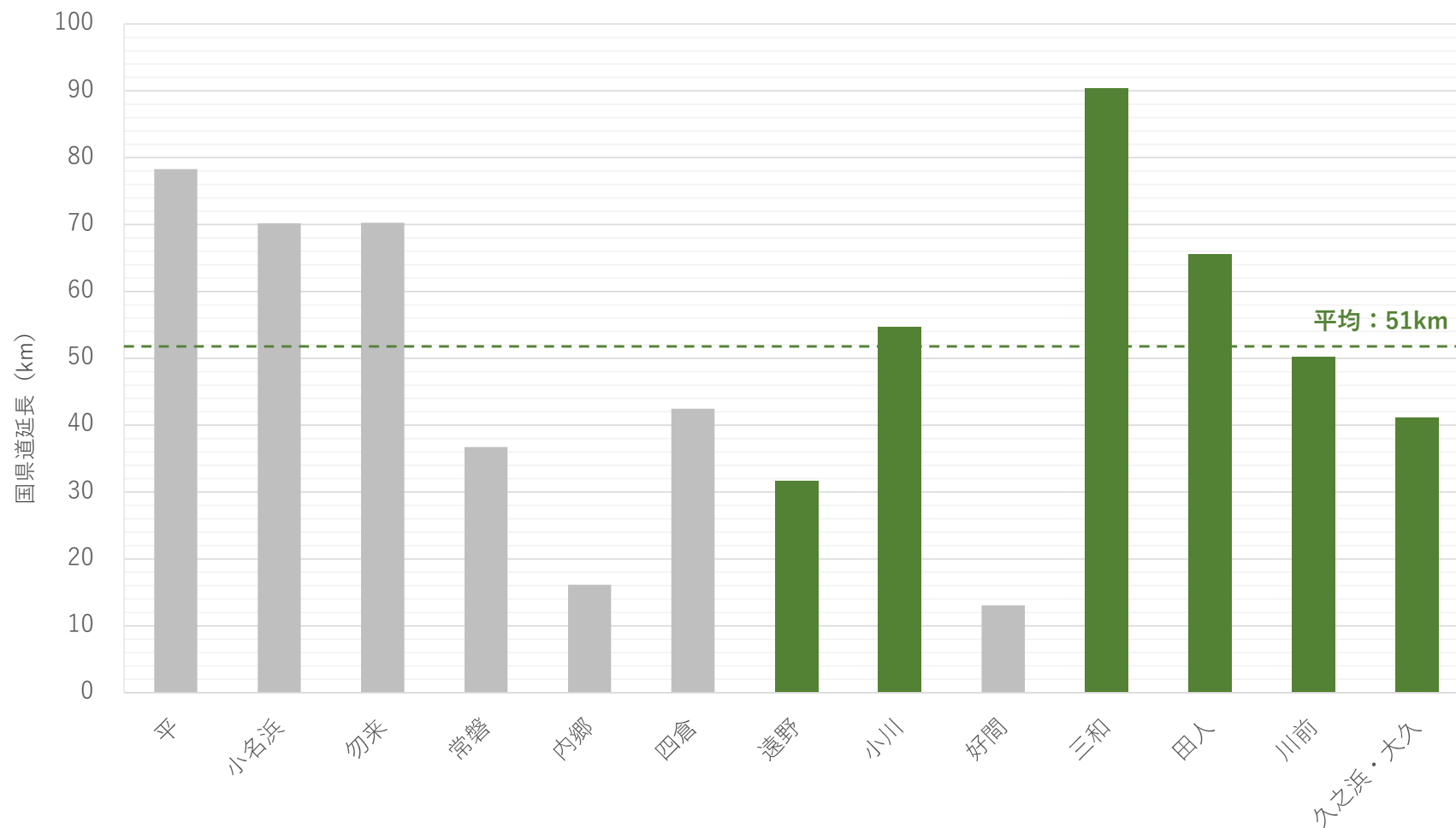


地区ごとの市道延長



▶ 中山間部は市道延長が短い傾向がある

地区ごとの国県道延長



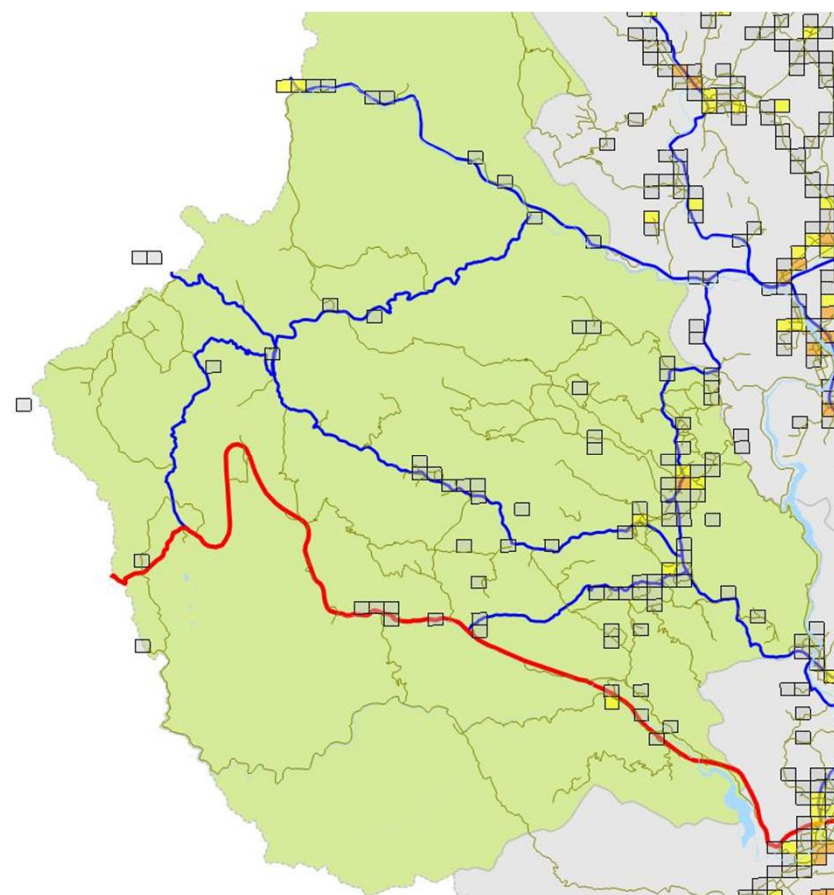
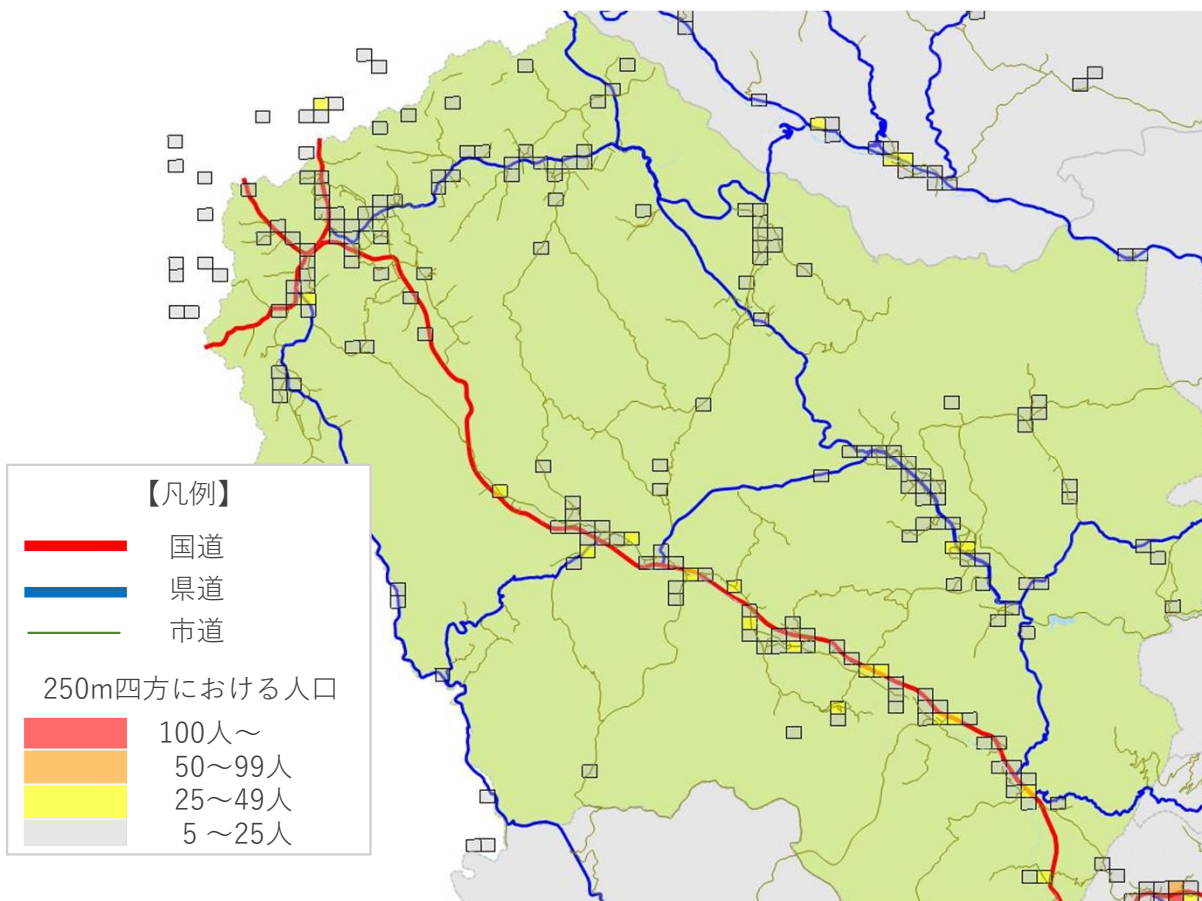
▶ 中山間部は国・県道延長が長い傾向がある

中山間部の居住実態



【三和地区】

【田人地区】



▶ 中山間部では多くの市民が国道・県道沿いに居住している

中核市比較 (62都市)

【市道延長】

6位

※2023年時点

【面積】

2位

※2023年時点

【橋梁数】

6位

※2021年時点

【人口】

42位

※2024年時点

【道路維持管理費】

27位

約6.6億円
※2024年時点

【可住地の割合】

56位

総面積の28.6%
※2024年時点

【土木職員数】

27位

※2024年時点

Current situation

【住民】

市の人口の

94%

都市部に居住

※2024年時点

【道路舗装率】

73.1%

※2023年時点

【道路予算】

45億円

【道路費の割合】

つくる÷まもる

【工事費用】
20年間で

約2倍

【職員の高齢化】
道路パトロール職員

平均66.6歳

※2024年時点

【苦情・要望対応時間】
年間

約1,000時間

※経済土木課を除く

【総ぐるみ運動参加者】

158,970人

※2024年の実績

Future >>>

【人口】
2060年には人口が
半分以下



【歳入】
中長期的には
減少傾向



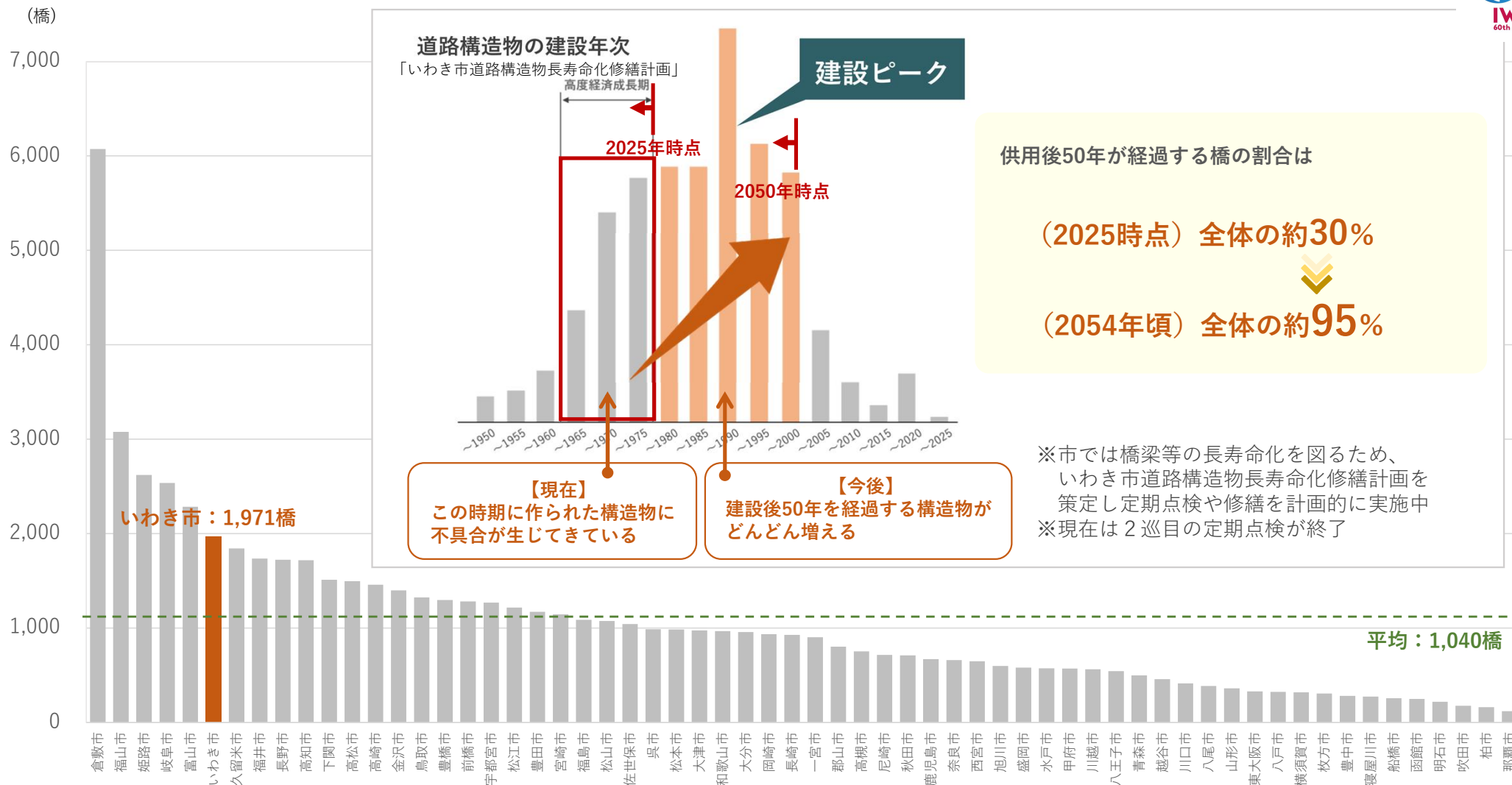
【市道延長】
市民1人あたり
2倍
2060年頃



【50年経過橋梁】
全体の95%以上
2060年頃



中核市の橋梁数



(出典) 国土交通省「令和3年度道路メンテナンス年報」

◆ 数字で見るいわき市の道路事情

- 01 いわき市の基本情報
 - 02 人口減少の現状と将来推計
 - 03 道路予算とその使われ方
 - 04 道路・橋梁の現状
 - 05 インフラを守るひとの現状
 - 06 インフラをとりまく状況と市の取組み
-

中核市比較 (62都市)

【市道延長】

6位

※2023年時点

【面積】

2位

※2023年時点

【橋梁数】

6位

※2021年時点

【人口】

42位

※2024年時点

【道路維持管理費】

27位

約6.6億円

※2024年時点

【可住地の割合】

56位

総面積の28.6%
※2024年時点

【土木職員数】

27位

※2024年時点

Current situation

【住民】

市の人口の

94%

都市部に居住

※2024年時点

【道路舗装率】

73.1%

※2023年時点

【道路予算】

45億円

【道路費の割合】

つくる÷まもる

【工事費用】
20年間で

約2倍

【職員の高齢化】
道路パトロール職員

平均66.6歳

※2024年時点

【苦情・要望対応時間】
年間

約1,000時間

※経済土木課を除く

【総ぐるみ運動参加者】

158,970人

※2024年の実績

Future >>>

【人口】
2060年には人口が
半分以下



【歳入】
中長期的には
減少傾向



【市道延長】
市民1人あたり
2倍
2060年頃



【50年経過橋梁】
全体の95%以上
2060年頃



市民の皆さんの負担



地域による美化活動（市民総ぐるみ運動など）での除草・側溝清掃など



【市民総ぐるみ運動】
2025年度 参加者158,970人
10年間で約45,000人減

【年間の作業量】



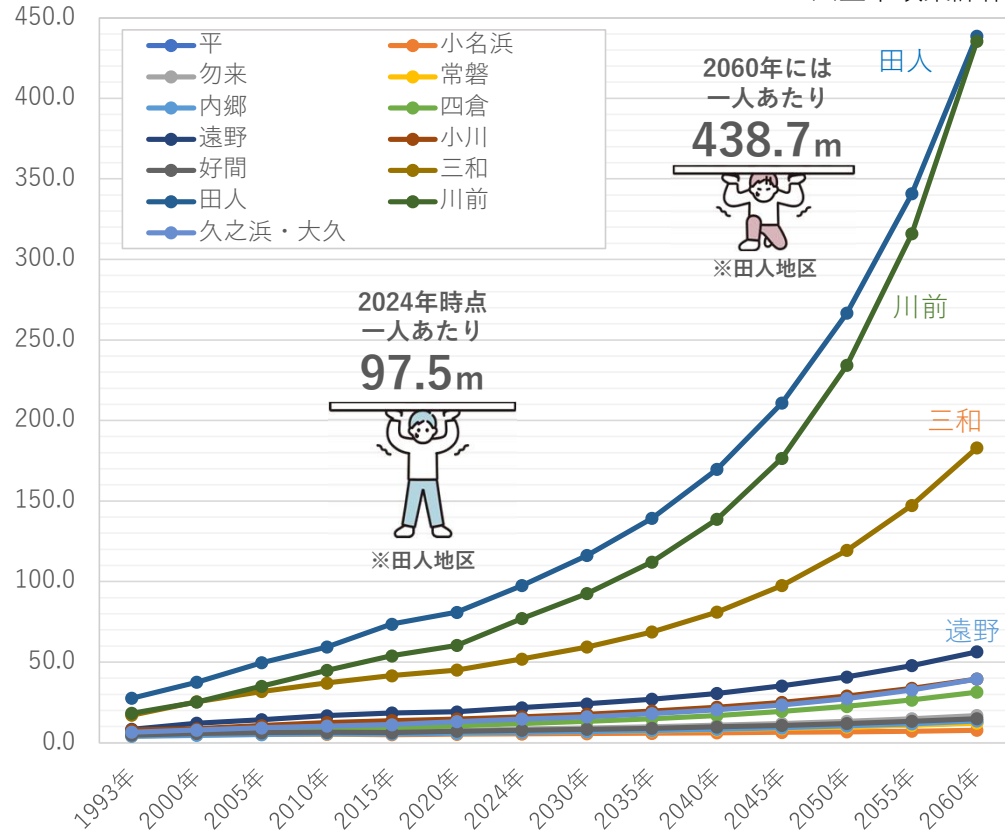
【一人当たりの負担】



▶ 多くの市民の協力により道路の安全が守られている

▶ 中山間部ではすでに負担が大きくなっている

(m) 人口1人当たりの舗装済延長（地区別） ※土木政策課作成



▶ 中山間部では都市部比で約4.3倍の延長を支えている

▶ 人口減少・高齢化の進行により市民の負担増が見込まれる

中核市比較 (62都市)

【市道延長】

6位

※2023年時点

【面積】

2位

※2023年時点

【橋梁数】

6位

※2021年時点

【人口】

42位

※2024年時点

【道路維持管理費】

27位

約6.6億円
※2024年時点

【可住地の割合】

56位

総面積の28.6%
※2024年時点

【土木職員数】

27位

※2024年時点

Current situation

【住民】

市の人口の

94%

都市部に居住

※2024年時点

【道路舗装率】

73.1%

※2023年時点

【道路予算】

45億円

【道路費の割合】

つくる÷まもる

【工事費用】
20年間で

約2倍

【職員の高齢化】
道路パトロール職員

平均66.6歳

※2024年時点

【苦情・要望対応時間】
年間

約1,000時間

※経済土木課を除く

【総ぐるみ運動参加者】

158,970人

※2024年の実績

Future >>>

【人口】
2060年には人口が
半分以下



【歳入】
中長期的には
減少傾向



【市道延長】
市民1人あたり
2倍
2060年頃



【50年経過橋梁】
全体の95%以上
2060年頃

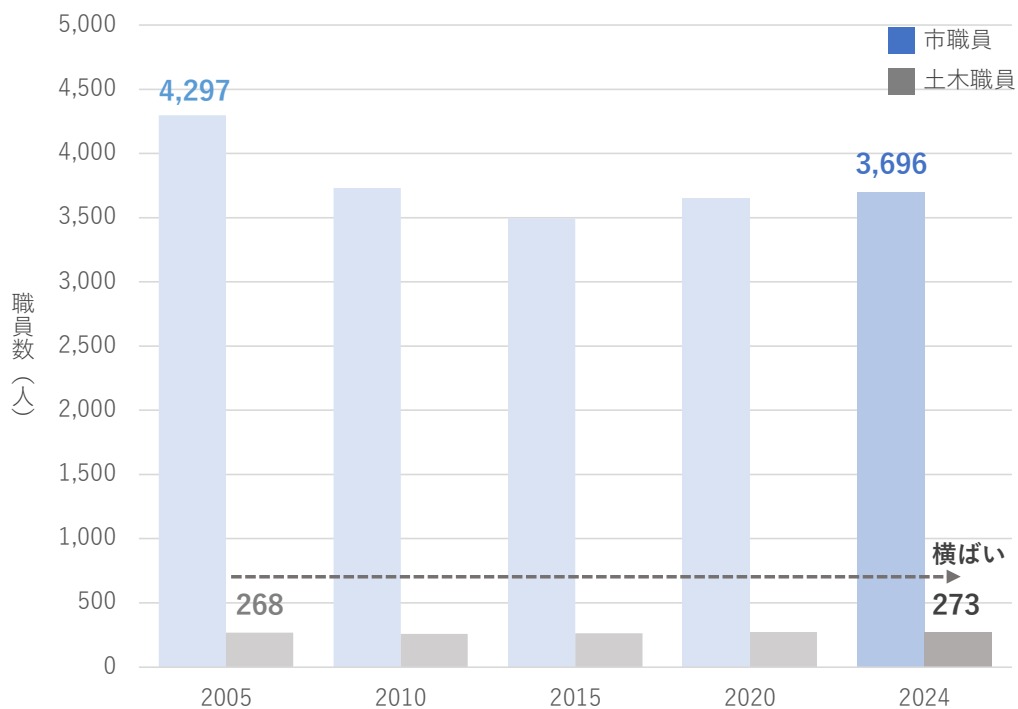


市職員の現状

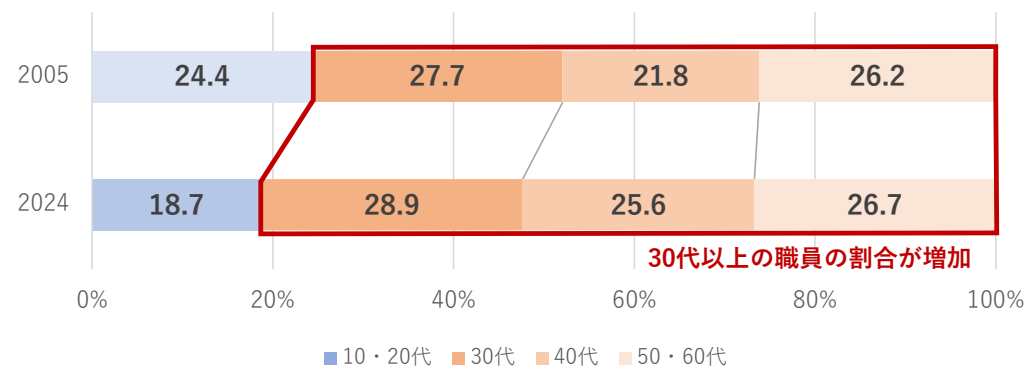


※土木政策課作成

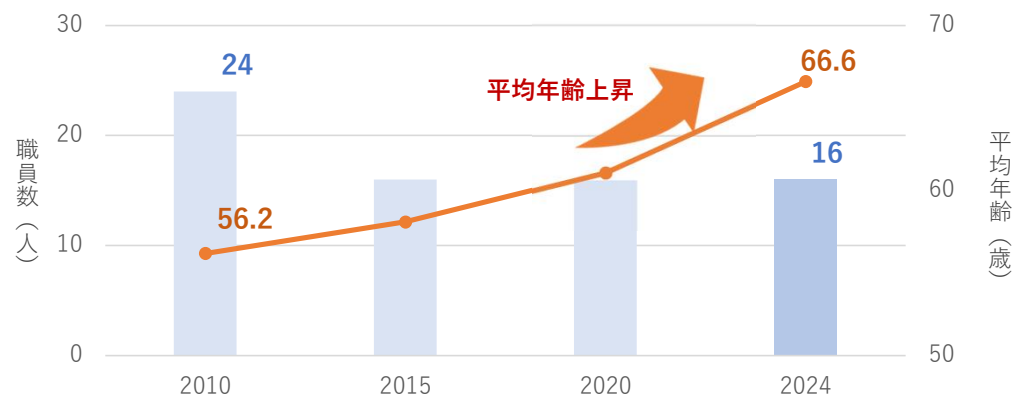
市職員数と土木職員の推移



土木職員の年齢構成



道路パトロールスタッフの推移（職員数、平均年齢）

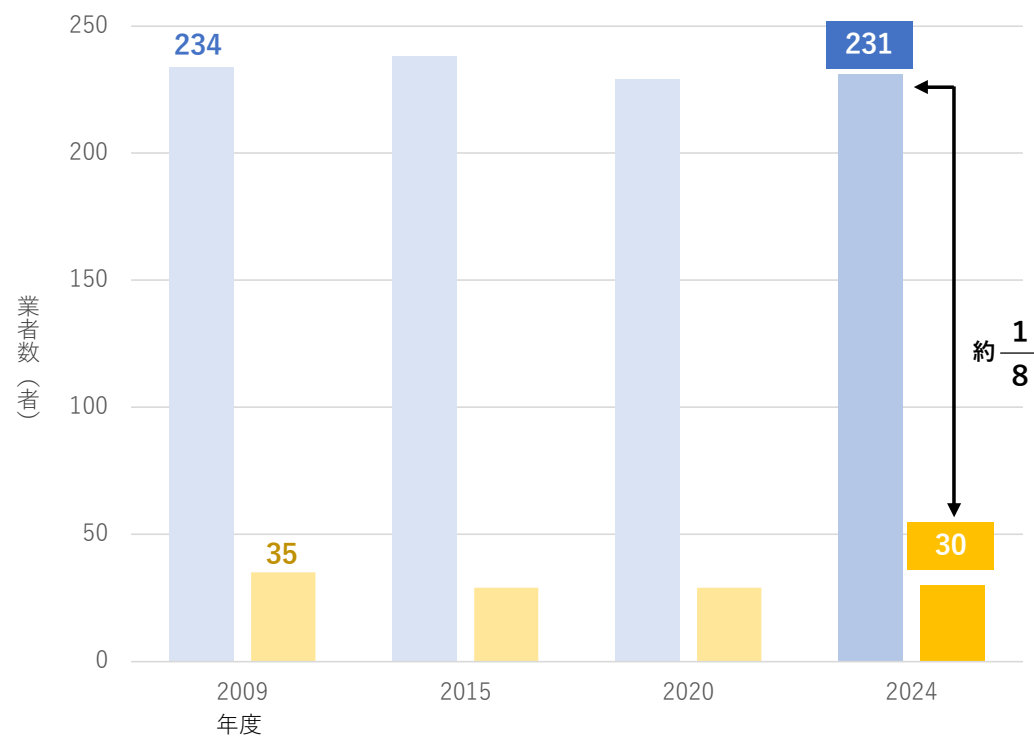
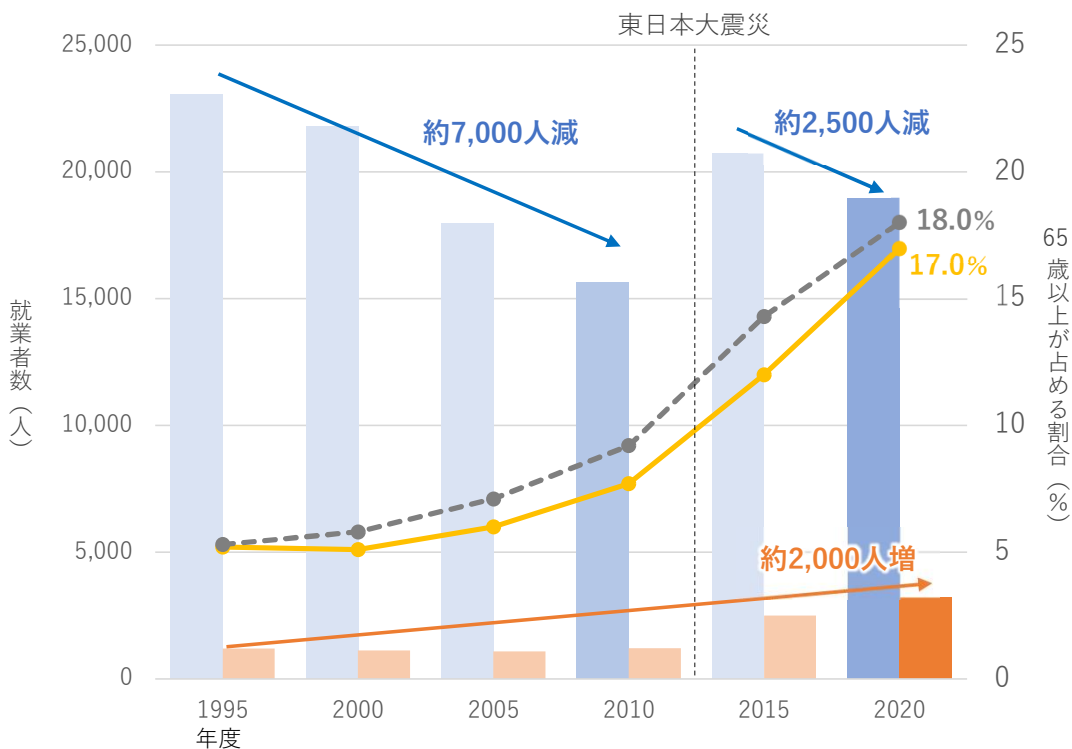


市内建設事業者の現状

※土木政策課作成

建設就業者数の推移と 65歳以上の建設就業者数が占める割合

入札参加資格者登録業者数（土木工事一式）の推移



- 市内建設就業者数
- 65歳以上の市内建設就業者数
- 市内建設就業者数のうち65歳以上が占める割合
- 全国建設就業者数のうち65歳以上が占める割合

- 都市部（平、小名浜、勿来、常磐、内郷、四倉、好間）の登録業者
- 中山間部（遠野、小川、三和、田人、久之浜・大久）の登録業者

◆ 数字で見るいわき市の道路事情

- 01 いわき市の基本情報
 - 02 人口減少の現状と将来推計
 - 03 道路予算とその使われ方
 - 04 道路・橋梁の現状
 - 05 インフラを守るひとの現状
 - 06 インフラをとりまく状況と市の取組み
-

社会的影響の大きい災害

- 東日本大震災
- 南海トラフ地震

頻発する異常気象

- 西日本豪雨
- 東日本台風

インフラの深刻な老朽化

- 笹子トンネル崩落事故
- 八潮市道路陥没事故

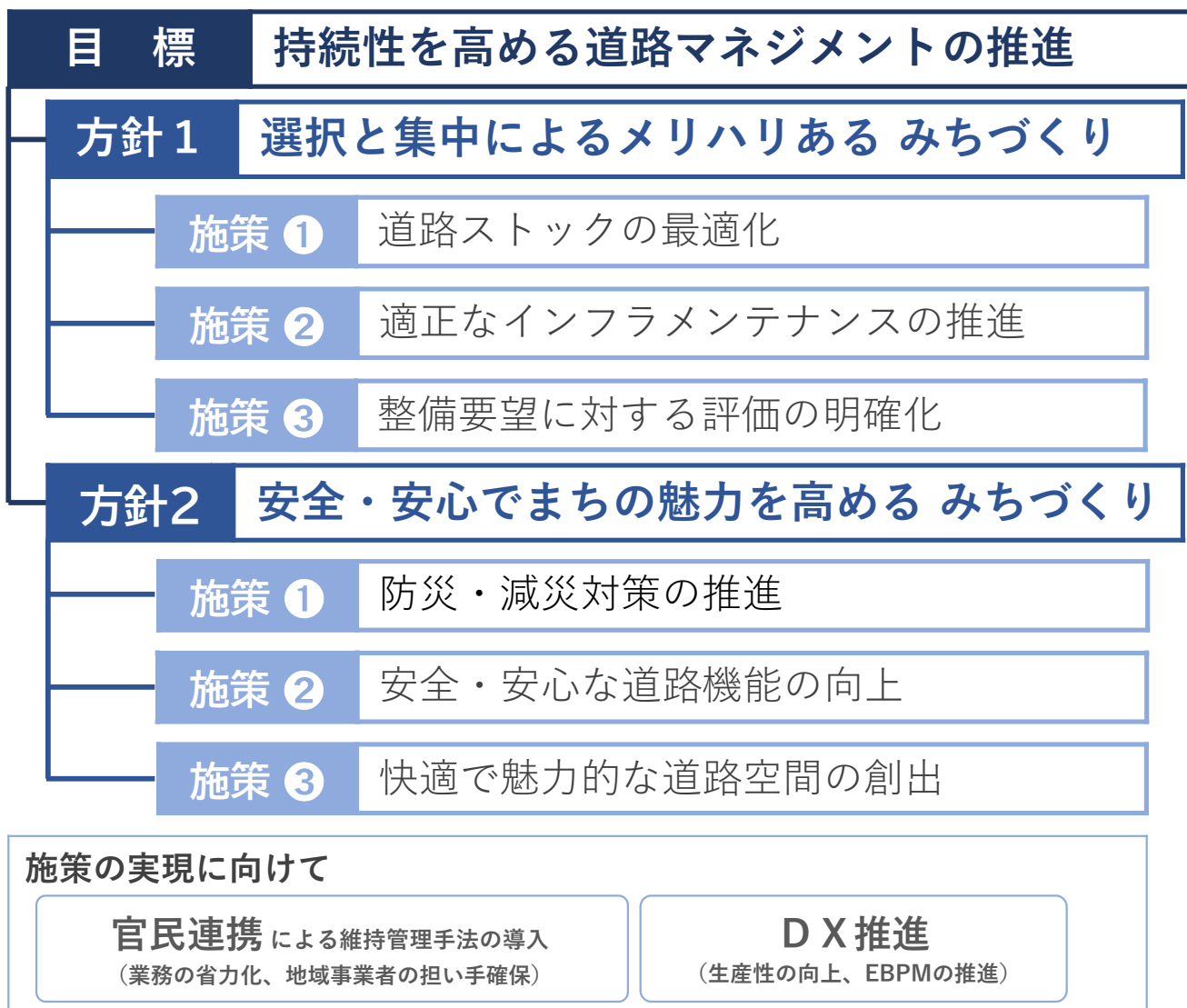


国の取り組み

激甚化する風水害・大規模地震への対策

インフラの老朽化対策の強化

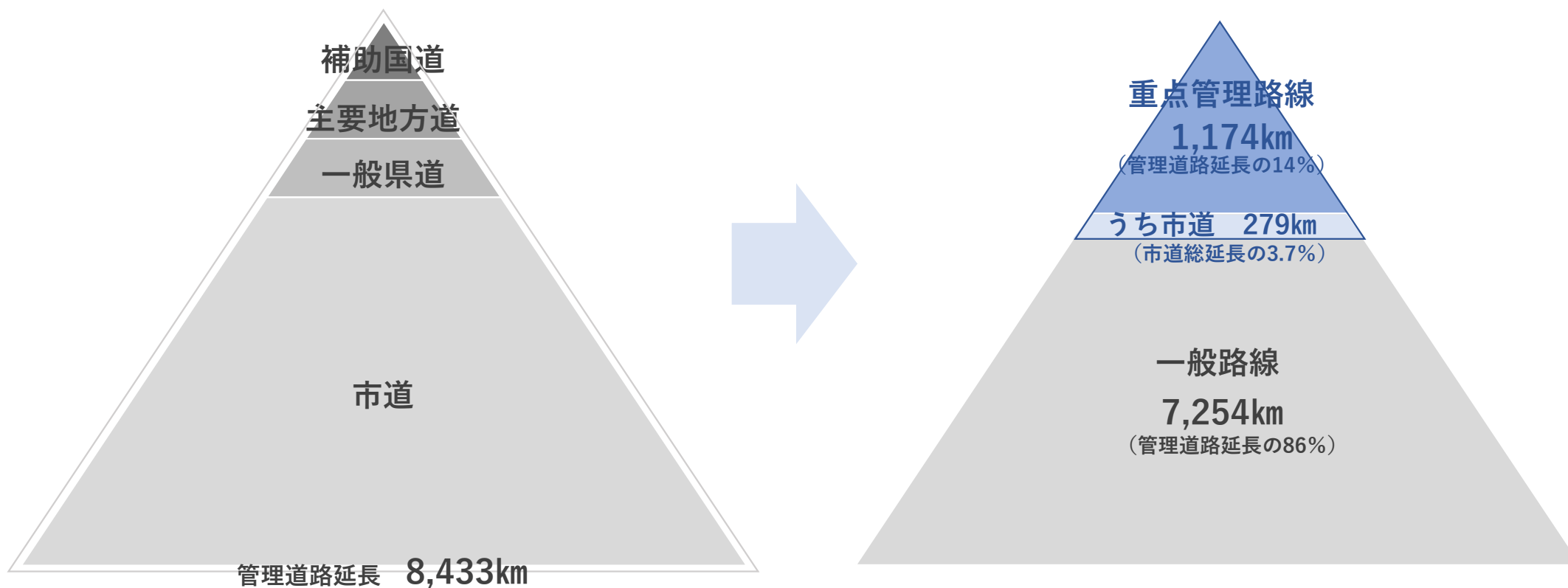
- 重要インフラの機能維持
- 官民連携の推進
- デジタル化の推進
- インフラの集約・再編 …等



重要路線の選定 浜松市の取り組み



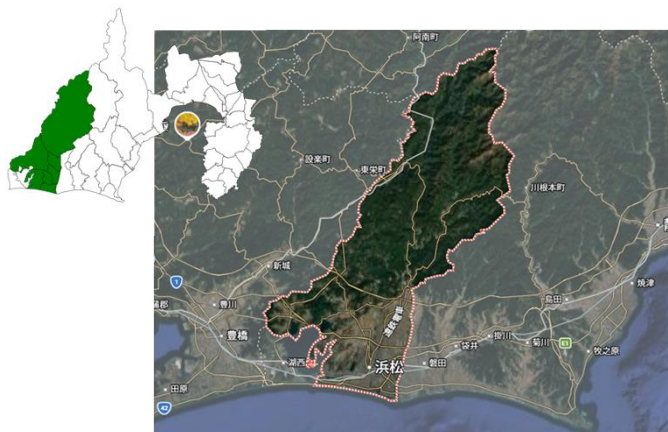
静岡県浜松市では、膨大な延長の道路を管理するため、防災・減災、老朽化対策の優先度の指標として**浜松市重点管理路線**を設定し、**優先順位を明確にした維持管理**を行っている



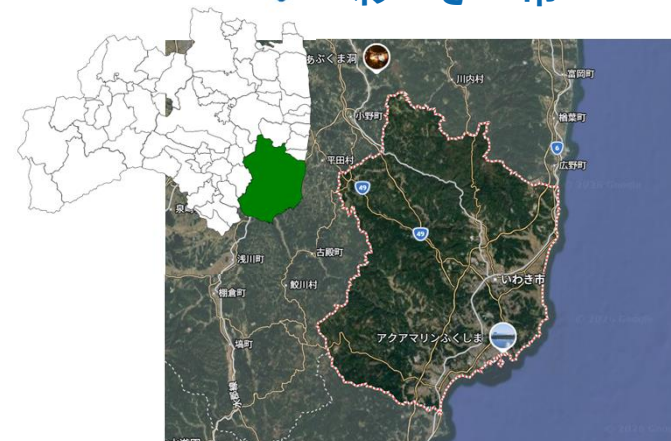
(出典) 浜松市「浜松市道路施設管理基本方針」R6.3
浜松市「浜松市舗装長寿命化計画(改定版)」R6.3

浜松市といわき市の比較

浜松市



いわき市



面積

1558.11 km²

1.3倍 >

1232.51km²

人口

78.8万人（政令指定都市）

2.6倍 >

30.6万人（中核市）

※令和6年1月1日住民基本台帳登録人口

道路管理延長

8,433km

2.4倍 >

3516.2km

※浜松市舗装長寿命化計画（改訂版）R6.3

橋梁数

5779橋

3.1倍 >

1855橋

浜松市橋梁長寿命化修繕計画（改訂版）R6.3

土木費

令和7年度当初予算

553.7億円

3.3倍 >

167.3億円